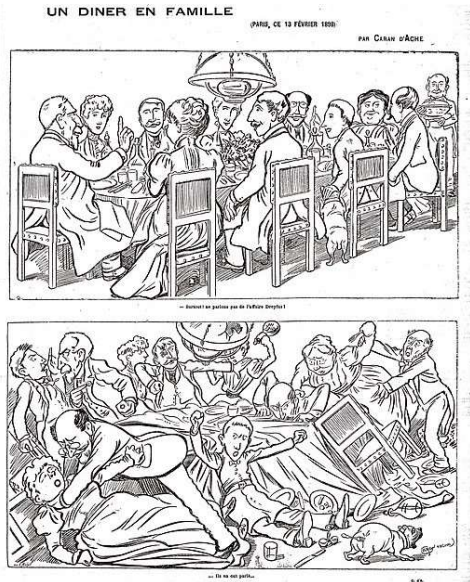


ナラティブ・メディア研究会 第31回研究会
《カリカチュアの語るもの》



〈発表1〉 カリカチュアの雄弁さ

—風刺画家カラン・ダッシュについて

東京大学大学院総合文化研究科 博士課程 石野慶一郎

フランスで活躍したロシア出身の風刺画家カラン・ダッシュ (Caran d'Ache, 1858-1909) について、いまだ広くは知られてはいないこの画家の紹介を兼ねつつ、同氏がドレフュス事件に関連して描いた風刺画を中心に分析する。ドレフュス事件について話してしまったあまり、食卓が争いの場に転じる2コマ落ちの彼のマンガを、もしかしたら見たことがある人もいるかもしれない。カラン・ダッシュはそのほかにもドレフュス事件にまつわる豊かな内実を備えた風刺画を数多く描いていた。フキダシを用いず、少ないキャプションのみで構成されたスタイルの風刺画が、しかしその実、雄弁に「語る」在りようについて考えてみたい。



〈発表2〉 現代に続くナージー・アル=アリーの影響力

—「ハンダラ」のメディア横断的登場と受容に関する一考察

東京大学大学院総合文化研究科 博士課程 濱中麻梨菜

パレスチナの人びとが抱える苦渋、怒り、抵抗の証人として、風刺画家ナージー・アル=アリー (Najī al-'Alī, 1936-1987) によって生み出されたキャラクターの「ハンダラ」は、1969年に登場して以来彼のすべての風刺画に描かれており、その死後も様々な形で派生している。ハンダラが今もなおパレスチナの人びとの間でアイコン的キャラクターとして用いられている事実は、現代においてもアル=アリーの影響力が継続していることを意味している。本報告では、ハンダラの派生とその受容について、実例とともに比較・検討したい。

2024年9月6日(金) 15:00~17:40

東北大学青葉山キャンパス 情報科学研究科棟 8階小講義室

対面参加の場合は申し込み不要です。ZOOM配信ご希望の方は、8月31日(土)までに下のQRコードから申込みか、問合せ先に直接ご連絡ください。



問い合わせ：情報科学研究科 森田直子 naoko.morita.c4 [at] tohoku.ac.jp ※at を@に替えてください